

クリケットフェスティバルが開催



第2回の佐野ブランドにも認証された国際的スポーツ「クリケット」。本市では以前から国際大会が開催されており、昨年12月には「クリケットのまち佐野」サポータークラブが発足するなど、日本におけるクリケット隆盛地となっています。

今月28日(土)から30日(月)までの3日間には、クリケットの強豪国パキスタンと日本の外交関係が樹立してから60周年となることを記念し、クリケットフェスティバルが、県立田沼高等学校の校庭で開催されます。

フェスティバルのメインとなる29日(祝)にはクリケット男子日本代表の試合が午前9時から開催。また、午後1時30分から、「ベナジール・ブットー・シャヒードカップ」として女子日本代表の試合が開催されます。この日はパキスタンとの交流を図るイベントが行われ、国際グルメなども出品されますので、皆さんもぜひご来場のうえ、試合をご観戦ください。

なお、フェスティバルの詳細につきましては、特定非営利活動法人・日本クリケット協会 ☎050(3766)4483までお問い合わせください。

3.11 街頭募金活動

震災から1年を迎えたこの日、佐野市社会福祉協議会の募金活動が行われました。



▲多くの方が募金をしてくださいました

募金活動には、同協議会職員有志メンバーのほか、小学6年生から70歳代までの18人のボランティアが参加。午前10時30分から約2時間、大きな声で義援金への協力を呼びかけました。

集まった義援金は、合計210,344円。この義援金は、同協議会を通じて、(社)中央共同基金会へ送金されます。

なお、市でも、引き続き東日本大震災への義援金を受け付けています。ぜひ、ご協力ください。



2月25日(土)に行われた「さのまるお誕生日会」の際にファンの皆さんや子どもたちからいただいた、さのまるの似顔絵や写真が、3月20日(祝)まで、佐野未来館や佐野商工会議所、佐野駅前交流プラザ「ぱるぽーと」で展示されました。

似顔絵の総数は739枚・写真が25枚と、たいへん多くの皆さんから作品を提供していただきました。ありがとうございました。



たくさんの似顔絵、お写真をありがとうございました☆

国指定史跡化に向けて(唐沢山城跡)

2月25日(土)、唐沢山城跡講演会・発掘現場説明会が開催されました。

市教育委員会では、平成20年度から本格的な調査を進めていて、調査状況や、唐沢山城跡の歴史的価値への理解を深めていただくため、毎年講演会、発掘現場説明会を開催しています。

午前中に行われた講演会にはおよそ250人が参加。今回は、奈良大学文化財学教授の千田嘉博さんをお招きし、「唐沢山城から見た日本の城」をテーマに、唐沢山城跡の特徴や歴史的価値について分かりやすくご講演いただきました。

午後の発掘現場説明会には約170人が参加。発掘現場内の案内・説明が行われ、多くの方が堀や土塁などを間近で見学しながら、職員の解説に熱心に聞き入っていました。



掘現場内の案内・説明が行われ、多くの方が堀や土塁などを間近で見学しながら、職員の解説に熱心に聞き入っていました。



市民記者が、あなたのまちのホットな話題をお届けします

注目

健康福祉

募集

催し物

お知らせ

講座

話題

今こそ、エネルギーについて考えよう



東日本大震災から1年を迎えようとする3月3日、認定NPO法人・原子力資料情報室の西尾獏さんによる男女共同参画講演会「原子力発電と今後のエネルギー」が開催されました。

講演会では、原子力発電で燃料となるウランは最初の採鉱時で汚染残土が生まれ、製錬、原発利用、最後にMOX燃料に加工されるまで全ての過程でウラン廃棄物が出てしまい、その処理もできないことが説明されました。また、今回のような災害やテロに備え、自然エネルギーへの転換を西尾さんは静かに、そして強く訴えられ、約180人の聴衆は熱心に聞き入っていました。

私たちは知らずに原子力に依存しすぎたのでしょうか。未曾有の災害にともない、原子力発電所の事故に見舞われた日本が、今後他国の規範となれる国づくりを目指していけるよう、私たち国民も自身の電気の使い方やライフスタイルを再考し、取り組む時と感じました。(市民記者 永倉文子)

美しい薄緑色の桜が咲きます



◀美しく咲く桜の木カラーでお伝えできなくて残念です

吉水町の榊神社の近くに、とても珍しい色の花をつける桜の木があります。

最初、どんな花が咲くのだろうと思わせるような、青と言っていい色のつぼみを付け、開花と共に、花びらの色が薄緑色から淡い黄色と変わり、満開のころには、薄いピンク色の花びらの中心が赤みを帯びていきます。持ち主の根岸新一郎さんは「父親が植えたものなので、木の名前も、樹齢もわからないのですよ」と、おっしゃっていましたが、近所のお話では「ウコンザクラ」とも、「御衣黄」という桜とも。八重桜なので、4月中旬過ぎに見ごろを迎えます。

何気なく過ごしていると見過ごしてしまうことがあります。春はいろいろな花があちこちで美しく咲き誇ります。皆さんも足をとめて、身近な花々の美しさをぜひご覧になってください。(市民記者 山口万里子)

佐野弁 ばんてい

戸や障子を閉めることは、カタメルという

かつて戸(雨戸)や障子を「閉める」の方言に、カタメルがありました。当時は、このカタメルが共通語の「閉める」よりはるかに勢いがあり、性別や年齢に関係なく多くの人たちが日常的に使っていました。

「障子を開けばなしにしトクと、チミテー(冷たい)風がヘーッテ(入って)くるから、ちゃんとカタメトケ(閉めておけ)」

カタメルは、堅く守る、戸締まりを厳重にするという意の「固める」が原義でしたが、これが変化して戸障子を閉めるという意味になりました。カタメルと同じ意味の方言に、タテルもあります。戸障子や襖など開閉する建具には、カタメルが多く使われ、タテルの場合は、主に外回りの戸(雨戸)に使われることが多く、両者の使い方にちよつとした違いがみられます。

「午後になったら風が来るツテカラ(というから)、雨戸をタテテコー(閉めて来い)」「今日は風がツエー(強い)から、東っ側の戸はそのままタテテケー(閉めておけ)」

タテルは戸や雨具などを引き寄せて、並べ立てることをいい、これによって雨や風を防ぎました。このような行為が「閉める」の意になりました。明治・大正生まれの人たちは、カタメルもタテルも使っていました。昭和になるとタテルもカタメルも使用者が少なくなり、今では高齢者同士の会話に時折聞かれる程度で、両語とも死語に近い方言になってしまいました。

(市民記者 森下喜一)